

平成 21 年 5 月 11 日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2006～2009

課題番号：18401026

研究課題名(和文) アフガニスタン・ハザラジャートにおける仏教伝播の調査研究

研究課題名(英文)

The Research for the Transmission of Buddhism in Hazara Region, Afghanistan

研究代表者

入澤 崇 (IRISAWA TAKASHI)

龍谷大学・経営学部・教授

研究者番号：10223356

研究分野：仏教学

科研費の分科・細目：東洋史

キーワード：仏教伝播、石窟、仏塔、パーミヤーン、バンデ・アミール川、交易路

## 1. 研究計画の概要

本研究は、アフガニスタン中央部パーミヤーン以西における仏教伝播の調査研究を主目的とする。ハザラジャートのバンデ・アミール川流域に点在する学界未報告の遺跡を調査し、現地研究者の協力を得て仏教の西への広がりを検証していく。

## 2. 研究の進捗状況

従来、アフガニスタン中央部で知られる仏教遺跡としてはパーミヤーンが最西端であった。しかし2003年から2005年の間にパーミヤーンの西120km地点の周辺で発見された遺構 チル・ボルジ城砦址の一部、ケリガン寺院址、サレ・スム石窟 が仏教寺院であると龍谷大学の調査によって確認された。

これらの遺構は全て、バンデ・アミール川流域に位置しており、当研究初年度の2006年はまず、これまで確認された遺構の測量を行った。アフガニスタンのパーミヤーン以西での仏教遺跡調査はこれが初めてのことであり、今後の「仏教西漸」研究の基礎作業となるものである。ケリガン仏寺址の仏塔は、破壊が進行するアフガニスタンの遺構にあってとりわけ貴重で、パーミヤーン周辺では仏塔信仰はそんなに盛んではなかったとする通説を見直す契機を与えた。近郊のタンギ・サフェーダック出土のバクトリア語碑文は、イスラーム勢力が支配している8世紀初頭に仏塔が建立されたことを伝えており、ケリガンの仏塔もほぼ同時期のものではないかとの見通しをたてることができた。

2006年の調査では、バンデ・アミール川流域のヤッカウラング周辺で、新たにクシャゴラ石窟とムシュタック石窟を確認した。両

石窟はパーミヤーン石窟にみられる特徴を有していた点から、仏教石窟の可能性が高いとみなせる。仏教が伝播するうえで、パーミヤーン地区とバンデ・アミール川流域とが密接な関係にあったことをうかがわせると同時に、バンデ・アミール川流域に相当規模の仏教文化圏が存在していたことを示す点において、これらの石窟を確認できたことは大きな収穫である。

また2006年は、バンデ・アミール川ノバルフ川流域の峻険な渓谷を車で踏査して、かつての交易路を探った。バルハープからトゥクザール、サンチャラックを経て、サリプル州の州都サリプルへ。さらにサリプル川を南下するルートを辿った。仏教伝播という観点からこの地方が調査されたことはかつてなく、今後の研究のための準備作業ができた。サリプル川周辺においても未報告の石窟が点在しており、石窟の造営と交易活動との視点から仏教伝播をとらえていく必要性を強く感じ、2006年12月23日に龍谷大学において「仏教西漸：アフガニスタンの歴史・考古・仏教」を開催した。

2007年からはアフガニスタン情勢が緊迫して、現地調査を遂行することが困難となった。現地で得た視覚データの解析と遺跡地図の作成、バンデ・アミール川流域の仏教遺跡と共通点を有する遺跡の抽出に努めた。バンデ・アミール川流域のチル・ボルジ、ケリガン、サレ・スムの調査報告書を目下のところ準備中である。バンデ・アミール川流域の石窟と類似性をもつ石窟がトルクメニスタンとアフガニスタン国境付近に存在することをつきとめているので、調査地点の変更も視野に入れて、仏教西漸研究を強化していき

いと考えている。

### 3. 現在までの達成度

やや遅れている。

(理由)アフガニスタンの情勢が悪化して、ハザラジャート地区の調査が困難となったことが最大の理由である。ただ、仏教西漸という点については、アフガニスタンのハザラジャート以西にも仏教遺跡の存在をつきとめたので、仏教伝播研究は着実に進捗している。

### 4. 今後の研究の推進方策

アフガニスタンの情勢悪化に伴い、当該地区での調査研究は困難を極める。そこで、「仏教西漸」の観点から調査地点をトルクメニスタン・イランに移し、バンデ・アミール川流域からの仏教西伝を追跡していきたいと考える。研究組織の再編も含め、方策を考慮中である。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

入澤崇「ムルガープ川流域への仏教伝播」  
『印度学仏教学研究』(査読有)57 巻 1 号,  
2008 年, pp.89 -96.

入澤崇「バーミヤーン以西で新たに見つかった仏教遺跡」『印度学仏教学研究』(査読有)56 巻 1 号, 2007 年, pp.256-263.

井上陽「ヤッカウラング周辺の仏教遺跡」  
『密教図像』26 号(査読有), 2007 年,  
pp.31-47.

[学会発表](計 3 件)

入澤崇「仏教西伝」国際シンポジウム：大衆部・大乘・ガンダーラ, 2008 年 11 月 29 日, 創価大学

入澤崇「ムルガープ川流域への仏教伝播」  
日本印度学仏教学会・第 59 回学術大会,  
2008 年 9 月 4 日, 愛知学院大学

入澤崇「バーミヤーン以西で新たに見つかった仏教遺跡」日本印度学仏教学会・第 58 回学術大会, 2007 年 9 月 5 日, 四国大学

[図書](計 1 件)

宮治昭・山田明爾他『インド世界への憧れ』  
シルクロード学研究センター, 2008 年, 総  
ページ数 183

[その他]

クシャゴラ石窟・ムシュタック石窟に関して  
2006 年 10 月 30 日付京都新聞(夕刊)  
2006 年 11 月 1 日付朝刊各紙

シンポジウム「仏教西漸」に関して  
2007 年 1 月 4 日付毎日新聞(朝刊)